北大ピアノクラブ

ウィンターコンサート

♪ 2023年12月24日(日) ♪

開場 12:00　開演 12:30

北海道立道民活動センター かでるアスビックホール

入場料 500円

後援 札幌市

Mail:hokudaipc2023@gmail.com / X(旧Twitter):@hokudai_piano / Instagram:@hokudai_piano

ご挨拶

本日はお忙しい中、北大ピアノクラブ ウィンターコンサートにお越しいただき、誠にありがとうございます。

北大ピアノクラブはピアノを通じた部員同士の交流を目的としたサークルで、週 1 回の例会と年数回の定期コンサートを行っております。毎年年末に開催しているウィンターコンサートはクラシック曲に特化しており、弊クラブのコンサートの中で最も力を入れて取り組んでおります。さらに今回は数年ぶりに 2 台ピアノを復活し、クラシック曲の中でもバラエティ豊かなプログラム構成となりました。このような素晴らしい環境で今年もコンサートを開催することができ、非常に嬉しく思います。私含め、出演する部員たちも本日この場で演奏させていただけることを心待ちにしておりました。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

最後になりましたが、本日の開催にあたり、ご支援ご協力をいただきました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

北大ピアノクラブ　部長　浜口怜子

お客様へ

開演に先立ちまして皆様にお願いがございます。

・会場内でのご飲食、ご喫煙はご遠慮ください。

・携帯電話や時計のアラームなど音の出る機器は、あらかじめ電源をお切りください。

・演奏者の許可のない録音・録画・写真撮影はご遠慮ください。

・演奏中の移動や会場の出入りはご遠慮ください。やむを得ず会場の外に出られる際は、係の者の指示に従ってください。

・会場内では、個人の判断により必要に応じたマスクの着脱をお願い致します。

全てのお客様に快適に演奏をお楽しみいただけますよう、ご協力をお願い致します。

目次

〈第一部〉

1.　ショパン：ノクターン 第２番 変ホ長調 Op.9-2
　総合理系 １年 佐藤春音（さとうはると）

2.　ショパン：スケルツォ 第３番 嬰ハ短調 Op.39
　法学部 １年 佐藤玲（さとうれい）

3.　ブラームス：２つのラプソディ 第１番 ロ短調 Op.79-1
　法学部 ２年 初谷実優（はつやみゆう）

4.　ショパン：ワルツ 第７番 嬰ハ短調 Op.64-2
　　練習曲集 第１番 変イ長調 Op.25-1 「エオリアンハープ」
　歯学部 ３年 青山翔（あおやましょう）

5.　リスト：スペイン狂詩曲（スペインのフォリアとホタ・アラゴネーサ） S.254 R.90
　薬学部 １年 清水虎太朗（しみずこたろう）

〈第二部〉

6.　ショパン：バラード第１番 ト短調 Op.23
　農学院生命フロンティアコース １年 川満龍平（かわみつりゅうへい）

7.　ショパン：バラード 第２番 ヘ長調 Op.38
　工学部機械知能工学科 ３年 坂野遼太郎（ばんのりょうたろう）

8.　ショパン：バラード 第３番 変イ長調 Op.47
　理学部数学科 ４年 笹木元太（ささきげんた）

9.　ショパン：バラード 第４番 ヘ短調 Op.52
　工学部環境社会工学科 ３年 早川桂佑（はやかわけいすけ）

10.　ショパン：スケルツォ 第２番 変ロ短調 Op.31
　工学部環境社会工学科 ２年 浜口怜子（はまぐちれいこ）

11.　ショパン：スケルツォ 第３番 嬰ハ短調 Op.39
　工学部情報エレクトロニクス学科 １年 小畑蒼大（こばたそうた）

〈第三部〉

12.　ラフマニノフ：組曲 第２番 Op.17 第４曲 「タランテラ」

札幌医科大学医学部医学科 ４年 村越和基（むらこしかずき）

工学部機械知能工学科 ３年 坂野遼太郎（ばんのりょうたろう）

13.　ドビュッシー：小組曲

Ⅰ：小舟にて

Ⅱ：行列

Ⅲ：メヌエット

Ⅳ：バレエ

理学部化学科 ２年 端山恵菜（はやまえな）

水産学部海洋生物科学科 ２年 堀田柊成（ほったしゅうせい）

理学部化学科 ２年 井上武優（いのうえたけまさ）

工学部環境社会工学科 ２年 酒向みなみ（さこうみなみ）

14.　サン=サーンス：動物の謝肉祭

Ⅰ：序曲

Ⅶ：水族館

ⅩⅡ：化石

ⅩⅢ：白鳥

ⅩⅣ：終曲

工学部環境社会工学科 ２年 浜口怜子（はまぐちれいこ）

薬学部薬学科 ６年 成家康太（なりやこうた）

第一部

1.　ショパン：ノクターン 第２番 変ホ長調 Op.9-2

　　総合理系 １年 佐藤春音（さとうはると）

〈曲紹介〉

有名なアレです。明るいけど色気もあっていい曲ですよね。全体的な難易度はそこまで高くはないですが、最後のトリルが大変です。ピアノを習っている人なら弾いたことがあるかと思います。ミスタッチするとバレバレなので頑張ります。

〈人物紹介〉

さとうはるとと申します。大学に入って私服で過ごす時間が増えたことにより、自然とファッションに興味を持ちました。真冬はおしゃれどころではなくなりそうなので心配しています。どうなってしまうのでしょうか。

筋トレはまだなんとか続いています。これからも頑張ろうと思います。

2.　ショパン：スケルツォ 第３番 嬰ハ短調 Op.39

　　法学部 １年 佐藤玲（さとうれい）

〈曲紹介〉

この曲は 1839 年に出版され、ショパンが前年にマジョルカ島で作曲したもの。曲調の起伏が激しく、スケルツォ本来の「冗談らしさ」がショパンの独特な感性によって感じられる曲だと思います。

〈人物紹介〉

大学在学中にもう一度コンクールに出られるよう、リハビリ中です！よろしくお願いします。

3.　ブラームス：2つのラプソディ 第1番 ロ短調 Op.79-1

法学部 2年 初谷実優（はつやみゆう）

〈曲紹介〉

この曲は、ブラームスが46歳の時、1879年に作曲されました。ブラームスの作品の中でも広く親しまれており、聞いたことがある人も多いと思います。曲の中間部では、それまでとは一変して穏やかで繊細な旋律が登場します。お気に入りの場面なのでぜひご注目ください。

〈人物紹介〉

こんにちは。みゆう先輩の紹介を書かせていただけることになりとても嬉しいです！みゆう先輩はとっても優しくて、いつも沢山話しかけてくださいます。学部は法学部だそうです！あとは、まだ言ったことがなかったのですが、みゆう先輩のファッションセンスがすごく好きです！

そんなみゆう先輩はピアノを小さな頃から習っていたそうで、本当に上手です。ピアノのコンサートにあまり行ったことのなかった私は、ショパンの英雄ポロネーズと幻想即興曲を初めて生で聴いたのはみゆう先輩の演奏でした。今回はブラームスの2つのラプソディ第1番を演奏してくださるそうです！

みゆう先輩のかっこよくて綺麗な演奏をお楽しみください！

4.　ショパン：ワルツ 第7番 嬰ハ短調 Op.64-2

練習曲集 第1番 変イ長調 Op.25-1 「エオリアンハープ」

歯学部 3年 青山翔（あおやましょう）

〈曲紹介〉

ワルツ7番(Op.64-2)…作品番号が64のワルツは3つあります。そのどれもが晩年に作曲されたものです。ワルツ第6番(Op.64-1)は子犬のワルツとして知られていて有名ですが、今回演奏する第7番(Op.64-2)も一定の知名度があります。どこかで聴いた事がある人も多いと思います。構成は3部構成で主部にはABのいずれも嬰ハ短調の重要な旋律が用いられている曲です。ワルツでありながらマズル

カのリズムを感じるのも特徴です。聴いた感じは華やかですが、他界の 3 年前の曲ともあって哀愁を感じる事ができるかもしれません。

エオリアンハープ(Op.25-1)…1835 年、ショパンが、ドレスデンからパリへと向かう途中で、ライプツィヒのシューマン宅を訪ねた時に、当時未完成だったバラード第 2 番の冒頭と、この曲の 2 曲を弾いたとされています。シューマンは、この時ショパンが作品を弾いた様子について鮮明に描写しており、この曲について「エオリアン・ハープを思い浮かべられたい」と言及しました。以来、本作には「エオリアンハープ」という通称が定着したそうです。ちなみに、今から 7 年前、高校 1 年の時に藻岩山でピアノを演奏する機会があったのですが、その時に演奏した曲でもあり、そんな事もあったな〜と思いながら練習に励んでおります。
2 曲とも情熱を込めながらも軽快に演奏します。

以下、完全に余談ですが、私は入部 3 年目で今まで様々なコンサートで演奏させていただきました。しかし、ウィンターコンサートに出演するのは今年が初めてです。2 年前は総合理系の移行点レースに全力を注いでいたため断念し、去年は解剖実習や試験が忙しく練習時間が全く取れずに断念しました。今年こそはようやくウィンターコンサートで演奏できるので全力で演奏します。
最後にインスタ ID を書いておくので誰でもフォローしてくれると喜びます。
Instagram→s_blue_hu
(長文失礼しました)

〈人物紹介〉
彼はピアノクラブ 33 代の筆者から見たサークルの先輩にあたる方です。しかし、大学の学年は一個下なので後輩にあたります。でも同い年です。いきなりわけがわからなくなってきましたね。彼は近年のピアノクラブのあるあるとなってきた入部年と年齢と学年がバラバラな人のうちの 1 人です。
さらに話をややこしくしますが、先輩後輩であると同時に彼は元同期です。実は青山くんと筆者は北大で 2 つ目の大学で、一度別の大学に入学した過去がありま

す。
そのかつて入学した大学の学部学科学年が全て同じでした。
意味が不明だと思いますので一度整理すると、同い年で、サークルの先輩で、大学の後輩で、元大学の同期です。ちなみに、高校は全く繋がりがないかと思いきや、筆者の母が彼と同じ高校の出身であることが発覚しました。
世界って狭いですね。

さて、彼のピアノについてですが、先日行われた弊クラブの OBOG・現役生交流コンサートではバラード 2 番を演奏し、一般のお客様からブラボーを貰っていました。とっても上手でした。歯学部所属で忙しい日々を送っていますが、その合間を縫って毎回ハイクオリティな演奏をしてくれます。バロック、古典派、ロマン派と幅広いジャンルを取り上げますが、どれもその特徴を捉えていて思わず聞き入ってしまいます。今回はどんな曲を演奏してくれるのか彼の先輩、後輩、元同期として楽しみです。

5.　リスト：スペイン狂詩曲（スペインのフォリアとホタ・アラゴネーサ） S.254 R.90

薬学部 1 年 清水虎太朗（しみずこたろう）

〈曲紹介〉

スペイン狂詩曲は 1858 年(かつては 1863 年説が有力だったそうです)に作曲された、スペインの民謡を基にしたピアノ独奏用の作品です。他にスペインをテーマにした作品には『スペインの主題「密輸入者」による幻想的ロンド S.252』や『スペインの歌による演奏会用大幻想曲 S.253』があり、またハンガリー狂詩曲や巡礼の年からも分かるようにリストは各地をモチーフにした作品にも力を入れていました。楽曲の派手さや難易度の高さが注目されがちなリストですが、ダンテを読んで―ソナタ風幻想曲 S.161、ピアノソナタロ短調 S.178 に代表される文学的な作品や夜想曲(愛の夢)第 3 番 S.541、ペトラルカのソネット第 104 番 S.161 のような甘美な旋律を多数生み出しており、非常に高い音楽性を持ち合わせた作曲家でもあることが分かります。加えて、オペラの編曲や宗教的な音楽などにも精力的に

取り組んでおり、ほとんどの分野で傑作を遺しているといえます。スペイン狂詩曲はリストの持つ音楽性を存分に発揮した名曲の一つで、十数分という比較的長い演奏時間の中で様々に変容するテーマ、リストの他作品を想起させるメロディがゆったりとした前半部分、華やかでテンポの速い後半部分に上手く対比するように落とし込まれており、物語性を感じられる構成となっています。(本当に過不足のない構成です!!) また曲全体を通し、リストに特有の威厳が上品さと深みを生み出しており、非常に演奏効果が高くなっています。まず、重厚でドラマティックな和音とカデンツァ風の導入部が圧倒されるほどの荘厳さを生み出し、その威厳を保ったままハンガリー狂詩曲第 2 番冒頭部分のようなゆっくりとした重々しい旋律に切り替わります。しばらくシリアスな曲風が続き一通り盛り上がった後転調し、陽気な舞曲風へと変容したまま前半部分が終了します。前半部分は「フォリア」というイベリア半島にゆかりのあるゆったりとした舞曲に基づいており、一般的にバス及び和声の進行が定型化されたものを基に変奏曲形式で演奏するという慣習にリストが則って作曲したそうです。(フォリアには「狂気」あるいは「常軌を逸した」という意味があるそうです) 後半部分は軽く穏やかに始まり、激情を抑えきれなくなったかのように段々と盛り上がりを見せ、情熱が頂点に達した後一度落ち着いたかのような民族的・舞踏的フレーズを挟むと、間もなくフォリアが長調で華やかに再現され曲が閉じられます。後半部分ではアラゴン州から派生したといわれる「ホタ」というテンポの速いワルツのような舞曲が用いられています。(ホタ・アラゴネーサはアラゴン地方のホタという意味だそうです。) 短調のゆったりしたフォリアが曲を堂々と閉じる主題でもあります。技術的にも構成的にも演奏が大変な曲で、少々聴き苦しい箇所があるとは思いますが、少しでもこの名曲の魅力を感じて頂ければ幸いです。

参考文献：ピティナ・ピアノ曲事典

〈人物紹介〉

名前：清水虎太朗

生年月日：2003 年 9 月 23 日

血液型：たぶん A 型　(AB 型っぽいね By 筆者)

一口メモ：実は陸上部にも所属している

無類のフランツ・リストオタク清水くん。彼とのお話は９割近くがリスト関係でございます。周りの人からしたらリストハラスメントですね、すみません。しかも残りの１割は薬学と蛇毒とかの話です、物騒ですよね。
そんな清水くんですが、今回はリストの中でも難曲中の難曲スペイン狂詩曲を弾いてくれます！しかも１部のトリです！もう一度言います、トリです！筆者憧れの指裁きと演奏を皆さんも楽しんでください。
ちなみに、この紹介文を書いている最中に彼が次期部長になることが決定いたしました。来年度のコンサートでは弾き語り(しかもまさかのクラシック)をやりたいそうです。筆者は彼がメフィストワルツ、鬼火を弾いてくれないものかと期待しております。彼の活躍に乞うご期待…！

第二部

6.　ショパン：バラード第１番 ト短調 Op.23

農学院生命フロンティアコース １年 川満龍平（かわみつりゅうへい）

〈曲紹介〉

ショパンが 21 歳(1831)の時に作り始め、26 歳(1836)の時に出版された曲だそうです。フィギュアスケートの羽生結弦選手が使っていたので聴き覚えがある方が多いのではないでしょうか。イントロのオクターブの壮大さや、ショパンらしい和音の響きの美しさ、コーダのかっこよさが印象的ですよね！

ショパンは作曲の際、同郷のポーランドの詩人、ミツキェヴィチの『コンラッド・ヴァレンロッド』から着想を得たそうです。（今で言うとアニメの主題歌作ったみたいな感じなのでしょうか…）
『コンラッド・ヴァレンロッド』は吟遊詩的なスタイルの歴史もので、主人公ヴァレンロッドが祖国やら愛する人へ云々という感じの物語です。軍人として戦場を選んだのにも関わらず、犠牲にした愛する人との幸せな時間を思い出してしまう、ヴァレンロッドの葛藤をショパンは表現したかったのかな～、というのがぼくの感想です。具体的に何を表現したかはショパンにしかわかりませんが、耳に残る第一主題と第二主題の対比が美しいですね。現実と理想、現在と過去、等、聴き手によって主題から受け取る印象は違ってくるのではないでしょうか。
『コンラッド・ヴァレンロッド』は、久山宏一さんによって訳されたものが 2018 年に出版されているので、是非読んでみてはいかがでしょうか。また、作中竪琴の歌が頻出するので、北欧の竪琴を使った吟遊詩の歌が YouTube で聴けるので是非検索してみてはいかがでしょうか。

ごちゃごちゃと語りましたが、単純にぼくはこの曲が好きなので思うように弾けるよう頑張って演奏します。

〈人物紹介〉

紹介を頼まれました。後輩の匿名Ｓです。小さくてかわいいみっちゃん、ちいかわみつの魅力を存分にお伝えできればと思います。ヤー!!

ちいかわみつの出身は沖縄です。一緒にカラオケに行くと「あこれ絶対沖縄やん」とイントロでわかる曲を沢山披露してくれます。初めて一緒に行った人はどんな顔すればいいかわからないと思いますが、とりあえず笑えばいいと思います。

特技は…なんでしょうね。しまんちゅですので当然三味線は弾けますね。この前X（旧Twitter）に「三味線　ひいてみた」的な動画を投稿してました。なんかピアノ以外もできるのムカついたのでいっぱい陰リツしときました。不安で夜しか眠れなかったことでしょう。大笑いしてやりました。

なんだかそろそろ「チィッ」と彼の舌打ちが聞こえてきそうな気がします。ちいかわみつだけにってね。チィチィチィチィチィ wwwww

続けます。

ちいかわみつには数々の黒い噂が付き纏っています。「床で飯を食わされている」「心臓が沖縄にあるため拍動がない」「院進前まで無免だった」「帰省手段がバタフライ」「語尾がチー」この辺りは皆さんご存知でしょうが、今回私は危険を犯しながらもあの噂が真実であることを突き止めました。だから匿名Ｓなのです。それは「あ
（手記はここで途切れている）

普通にバイト終わりで疲れてるので一刻も早く寝たいです。ちなみにちいかわみつは雀荘でバイトをしています。雀カスです。半年ほど前に何を聞き間違えたのか「チートイツ？」と言いながら会話に乱入してきました。これが会話のチョンボってやつですかね。僕は麻雀しらないのでわかりません。

ここいらでお別れのようです。ここまでお読みいただきありがとうございました。
こんなん最後まで読んでる暇あったらちいかわ読んで寝てください。
最新 6 巻は 12/21 日に刊行されています。
コンサートの後は書店へ急げ!!

7.　ショパン：バラード 第 2 番 ヘ長調 Op.38

工学部機械知能工学科 3 年 坂野遼太郎（ばんのりょうたろう）

〈曲紹介〉

ショパンの作曲した 4 つのバラードのうち、第 2 番を弾きます。他 3 曲と比べて明暗がはっきり分かれており、そのコントラストが特徴的な曲です。牧歌のようにゆったりとした第 1 主題と、下行と上行を繰り返す荒波のような第 2 主題が落ち着く間もなく切り替わる、激しくも面白い曲だと思います。 さて、ショパンは曲の中で具体的な絵や映像を表現することは好まなかったといわれています。しかしバラード１，３，４の紹介にも書かれている(と思う)通り、ショパンのバラードはミツキェーヴィチの物語詩にインスピレーションを受けて作曲されたそうです。２番の背景には「シヴィテシ湖」にまつわる詩があるのだとか。簡単に紹介すると、シヴィテシ湖周辺の街が戦争で攻撃を受け、街の女たちが捕らわれるよりは死を、と荒れる湖にのまれたそうです。湖の周りには美しい花が咲き、手に取った男たちを呪ったといいます。バラード 2 番は呪いの曲なんですね。ショパンはこの呪いの曲をシューマンに献呈したそうです。ショパン曰く「余ったからあいつにやるか..」て感じらしいです。シューマンにもバラ２にも失礼やんけ。
僕は 4 つのバラードだと 2 番と 4 番が好きなんですが、みなさんどうでしょうか。このコンサートでお気に入りが見つかることを願っています。

〈人物紹介〉

坂野遼太郎は工学部 3 年生のピアノクラブ員です。岐阜出身ですが、名誉名古屋市民として名を馳せていて、好きな食べ物は味噌で、ハンドルを握ると性格が一

変してうちに秘めた荒々しさを解放させます。また、彼は子供っぽい性格をしており、一緒に旅行に行くと入ってはいけないところに行ってしまったり、崖のような高いところに登って行ったりと意外とやんちゃなので、振り回され続けてます。なんなら最近は普段の言動も幼くなりつつあり、周りからは2歳児だのなんだのと言われています。そんな彼ですが、ピアノの前に座ると精神年齢が上がり、普段の言動からは想像できないほどとてつもない技量の高さを見せてくれます。今回は何弾くんだっけかな、バラードだったかな。楽しみですね。

8.　ショパン：バラード 第3番 変イ長調 Op.47

理学部数学科 4年 笹木元太（ささきげんた）

〈曲紹介〉

全4曲からなるショパンのバラードの3番目の曲です。

ポーランドの詩人ミツキェーヴィチの詩に着想を得て作曲されたと言われています。ただ、詩の内容と曲に関連性は特に無いようです。

曲の構成としてはソナタ形式を念頭に作曲されています。

第二主題はハ長調、ヘ短調、変イ長調と3回転調して繰り返されたのちに嬰ハ短調でクライマックスを迎えコーダへと進みます。第二主題を挟む形で様々なモチーフが現れるという構成になっています。

(今日現在)全4人でお送りする(予定の)本日のバラード4曲のうち唯一この曲だけは長調で終わるという特徴があります。

今回は記念碑的な録音で知られるクリスティアン・ツィマーマンの録音の再現に挑戦してみました。しかし、弾けば弾くほどツィマーマンの音楽を支える基礎的な力の凄まじさを知ることとなりました。特に驚愕したのはペダリング技術です。彼はハーフペダルとしっかり踏み込むペダルを高速で使い分けて踏んでいます。この高速な踏みかえを利用することで第二主題ではメロディーをポルタート気味に伸ばしながら内声を出しています。第二主題はこの曲の核をなす大事な部分ですが、あいにく筆者の技術では再現は不可能でした。無念。

家帰ってツィマーマンの録音は聞かないでくださいね！恥ずかしいので！

ところで、この曲はイケメンと水の精の恋愛を表現した曲(*諸説あり)ということ

ですが、この曲を「笹木さんに似合うと思います！」とか言ってきた某は僕の何を見てるんでしょうかね。さて、今日はクリスマスイブらしいですね。知らんけど(怒)
とりあえず飲むぞー！

〈人物紹介〉
酒・タバコ・麻雀・ドンキ。これらすべての要素が集約した人間が笹木元太、これらの権化こそ笹木元太である。この紹介文を読むと、「えっ、ピアノクラブにこんなやんちゃなヤンキーみたいな人間がいるの？ギャップ萌えなんだけど」と思(ってしま)う方も少なくないと思われる。
しかし安心してほしい。期待に踊った胸の鼓動を見事に切り裂くのは、舞台袖から登場した中肉中背のチェックシャツメガネ(禿かかり)。「おいおいめちゃくちゃ陰キャやん」「金返せよ」ざわつくホール。椅子に腰かけるメガネ。諦めの文字が観客の頭上を踊る。

ヤンキーではないかもしれない。期待したギャップを味わうことはできないかもしれない。しかし諦めるのは、彼の演奏を聴いてからでも遅くはない。
いよいよ演奏が始まる。彼の演奏がそのギャップをも凌駕することを、ここに保証、宣言しよう。

9.　ショパン：バラード 第4番 ヘ短調 Op.52
工学部環境社会工学科 3年 早川桂佑（はやかわけいすけ）

〈曲紹介〉
ショパンのバラードの最後の曲です。技術的に難しい部分が非常に多くて大変ですが、頑張って弾きたいと思います。

〈人物紹介〉
「早川桂佑？　おいおい、冗談言うなよ。あいつには関わらない方がいいぜ。
なんでも、トイカンベツとかいう辺鄙な場所に住んで怪しげな宿に入り浸ってた

って話だ。
素性の知れないよそ者のオーナーと組んでやってたってんだから、どうせ碌でもないことを企んでたんだろうよ。
知ってるか？　ここいらじゃ有名な話なんだが、最近そいつがトイカンベツから出てきて街をうろついてるって話だぜ。
ああ、お前もそれで話を聞きに来たのか？
だがやめときな、あいつは遊びで関わっていいやつじゃない。
この傷を見な。これはヤツが従えてる猛獣にやられた傷だ。
まだ爪の跡が生々しく残っていやがる。
ああ、俺は過去にヤツとやりあったことがある……かなり前だがな。
恐ろしいやつだったよ……あれは 5 年前、吹雪の厳しい夜の話だ。
ヤツは手にした魔棒《ラフマニノフ》をおもむろに構えると、従えた猛獣の恐ろしい鳴き声で威嚇してきやがった。
なんとか棒技《鐘》は防げたんだが、猛獣の鋭い爪は受けきれなかった……それがこの傷だ。
できるならもう見たくはねぇな。
……え？　魔棒を手に入れたのは一年前？
……うるせぇな！！　間違えたんだよ！！
馬鹿にしやがって……。お前なんて、早川桂佑に食われちまえばいい！　けぇんな！！」

10.　ショパン：スケルツォ 第 2 番 変ロ短調 Op.31

工学部環境社会工学科 2 年 浜口怜子（はまぐちれいこ）

〈曲紹介〉

ショパンのスケルツォの中で最も知名度の高い曲といえば第 2 番なのではないでしょうか。
この曲を作曲した頃はショパンにとって激動の年であり、パリで華々しく活躍する一方で恋人と破局したり新たな恋人と出会ったりとさまざまな出来事があったそうです。めまぐるしく変化する曲調が情緒不安定なショパンの心情を表してい

るように感じられます。

2023 年を振り返ってみると、私にとっても激動の年だったなと感じます。
私は今年、ピアノクラブの部長を務めさせていただいたのですが、楽しかったことや大変だったことなど色々な思い出がよみがえり、まさにこの曲みたいな１年だったなぁと自分を重ねていました。至らないところも多々あったかと思いますが、そんな私を支えてくださったピアノクラブの皆さん、本当にありがとうございました。
部長としては最後となるコンサート、心をこめて演奏したいです。

自分へ、１年間おつかれ〜〜！

〈人物紹介〉
ぐっさんは偉大なる部長さんです。
これまで 1 年間、素晴らしい運営を主導してくださいました。以下のスペースを用いまして、彼女のこれまでの功績について書かせて頂きたいと思います。(著者調べ)

1. 部長に自ら立候補した。
(私の代や近年部長が決まらず、運営の係決めは困難を極め、とても長時間となっていました)
2. 女性部長。
(ここ 10 代近くは、男性部長が続いていたようですが、弊クラブでも積極的な女性登用が始まったようです。時代ですね、素晴らしいことです。ちなみに男性部長でなくてはいけないルールはどこにもありません笑)
3. 入部届・更新届のオンライン化
(部長として皆さんの個人情報を紙ベースで所有することはとても責任のいることで、処分もとっても大変です…。その中で、このオンライン化は弊クラブ史にも残る革命的なものでした。)
4. 部費回収率の向上

(サークル存続のためにはしっかりとした部費を徴収することが必要不可欠です。コロナ禍の影響で思うような活動ができない期間が数年間続いていた中で、その流れを打ち切る策を打ち出して下さいました。)

5. イベント係の設置

(今年からイベント係ができたらしいです。夏合宿や日帰り旅行の復帰は、部員の皆さんの交流を深める上で非常に重要なものなのではないでしょうか？)

6. 金葉祭実行委員と共同したストリートピアノの設置

(これは金葉祭実行委員の方々の力添えが主ではありますが、ぐっさんの功績も忘れてはいけません。黄色に包まれた中でピアノを弾ける環境はプーさん好きの私にとっては幸せでしかありませんでした。)

7. 取り戻された部員

(これまで書類上の部員数と実働している部員の間には大きな差があり、実質20~30 人程度のサークルでした。しかし、上記のような努力の甲斐もあり、どの活動に顔を出しても多くの部員がいます。)

このようにコンサートを開けるのも、彼女が部長として素晴らしい仕事をしたからこそだと思います。そんな彼女も今日で実質部長終了です。
これまでありがとうございました。部員全員を代表してお礼させて頂きます。

そんな彼女が奏でるピアノの最大の強みは「音の透明感」だと思っています。彼女の音色の虜となる方がまた今日増えることでしょう。

11.　ショパン：スケルツォ 第 3 番 嬰ハ短調 Op.39

工学部情報エレクトロニクス学科 1 年 小畑蒼大（こばたそうた）

〈曲紹介〉

ショパンの有名曲の一つです。

エネルギッシュな第 1 主題と、きらびやかな和音が響く第 2 主題のコントラストが印象的な作品です。最後の一音まで皆さんを引き込めるような演奏ができるように頑張ります。

〈人物紹介〉

筆者にとって彼は笑顔が印象的でとても可愛げのある後輩です。ピアノ以外にもスカッシュを嗜んでいたり、語学の勉強にも力を入れているみたいです。多才な彼ですが、テスト期間自炊が面倒くさくなって1か月コンビニ弁当で過ごしたり、サークルのメンバーで名古屋に観光しに行った時、集合時間にただ1人30分遅れて来たりと抜けてるところもあります。

演奏を聴く機会が何回かあったのですが、ピアノクラブの中でも選りすぐりの”ガチ勢”の予感が既に漂っている気がします。でもそれはコンスタントにサークル会館に通って、コンサート有る無しに関わらず練習を真面目にやっている彼の努力の賜物だと思っています。（サークル会館が遠いから全然行ってない筆者とは大違い。）

ピアノの腕もさることながら、人当たりも良く、誰とでも仲良くやっていくことができるようなので、来年以降のピアノクラブを引っ張っていくメンバーの1人であることを確信しております。がんばってね！

気づいたらすごいハードルを上げちゃいましたけど、コンサートで演奏を聴けることを私個人とても楽しみにしています。
みなさんもお楽しみに！

今度ご飯にでも行こう！
紹介文を書いてあまり踏み込んだエピソード（黒歴史）が思い浮かばなかったので教えてください。その時は奢ります笑

第三部

12.　ラフマニノフ：組曲 第 2 番 Op.17 第 4 曲 「タランテラ」

札幌医科大学医学部医学科 4 年 村越和基（むらこしかずき）

工学部機械知能工学科 3 年 坂野遼太郎（ばんのりょうたろう）

〈曲紹介〉

ラフマニノフの 2 台ピアノ組曲（全 4 曲）からフィナーレであるタランテラを弾きます。タランテラという曲名の由来は、「タラント地方の踊り」「タランチュラに刺されてのたうちまわるのが踊りっぽいから曲にした」など諸説あるそうです。後者ではないことを祈りましょう。速い 6/8 拍子の曲であり、全体を通して激しい曲調が続きます。2 台ピアノという構成を生かして各フレーズを 1st と 2nd で交代で演奏したり、前半で 1st が弾いたメロディを後半では 2nd が引き継いで…など、非常に遊び心ある楽しい曲になっています。ピアノコンチェルトの 2 台ピアノ ver.とは一味違ったド派手さを、ぜひ楽しんで聴いてほしいです。
余談ですが、この 2 台ピアノ組曲の作品番号は Op.17、そしてみんな大好き（?）ピアノ協奏曲第 2 番は Op.18 になっています。曲の雰囲気やコーダの作りに似たものを感じるのですが、どうでしょう？

〈人物紹介〉

ウィンターコンサートにお越しの皆さん、こんにちは！「楽しさのマエストロ」として、ピアノの鍵盤と笑いのノートで人生の楽章を奏でている村越氏の他己紹介をさせて頂きます。
彼は自分の意見をはっきりと述べることができます。そしてピアノは彼の第二の言語で、音符が物語を紡ぐように、キーボードの上で心の言葉を表現しています。しかし、堅苦しい演奏だけではなく、いつも愉快なエッセンスが程よく添えられています。楽観主義者であり、困難な瞬間でもポジティブなメロディーで挑戦に立ち向かいます。そして、時には自虐の芸術家として、周囲にいる人を笑いの渦に巻き込むことはたやすいようです。

そんな彼には思いやりの心もあります。人々を笑顔にすることが使命であり、大食いながらも、心の飢えを埋めるために周囲の人々を大切にしています。音楽、笑い、そしておいしい食べ物。これらが彼の人生の三大要素です。彼の奏でるユニークで温かみのある音楽をぜひ楽しんでください。
以上で ChatGPT に頼りまくった他己紹介を終了します。他己紹介の期限前日に急遽書いてほしいと依頼する人と、ChatGPT を駆使して他己紹介文を作った人のどちらが悪いかは皆さんに決めて頂きたく存じます。

13.　ドビュッシー：小組曲

Ⅰ：小舟にて

Ⅱ：行列

Ⅲ：メヌエット

Ⅳ：バレエ

理学部化学科 2 年 端山恵菜（はやまえな）

水産学部海洋生物科学科 2 年 堀田柊成（ほったしゅうせい）

理学部化学科 2 年 井上武優（いのうえたけまさ）

工学部環境社会工学科 2 年 酒向みなみ（さこうみなみ）

〈曲紹介〉

第 1 楽章「小舟にて」
まさに水面を滑るように進む小舟といった雰囲気で分散和音にメロディーが重ねられます。静かで美しい曲ながら、2 台 8 手ならではの奥行きが感じられる曲です。4 人のなかでメロディーとそれ以外の部分を頻繁に交代しながら演奏するところが見どころです。

第 2 楽章「行進曲」
全体的に軽やかで弾むように進行します。そのメロディからは子供や小動物が行進している印象を受けます。最初に提示される主題と中間部でがらりと雰囲気が変わり、最後に主題が再現されますので、情景を想像しながら聴いてみてください。

第 3 楽章「メヌエット」
4 曲の中で唯一短調のメロディーが登場しますが、切なさの中にも明るさと可愛らしさが感じられる曲です。軽快な 2 楽章のあとに優しいメヌエットが入ることで、4 楽章の華やかさが際立ちます。コントラストに注目してお楽しみください。

第 4 楽章「バレエ」
最後に演奏しますこの曲の特徴はなんと言ってもその華やかさです。アップテンポで軽快に進むメロディーはフィナーレに相応しいでしょう。迫力満点の曲を是非お楽しみください。

〈人物紹介〉

1st ピアノセコンドの堀田より、プリモの端山恵菜を紹介させていただきます。ピアノクラブのしっかり者といえばまず名前が挙がるであろう人物です。学業成績がピカイチなのは有名な話？ですが、サークル活動もピアノクラブ以外にマンドリンオケにも積極的に参加し、このコンサートの 1 週間前にも定期演奏会にでたんだとか。忙しい忙しいって言っていながら、今回の連弾も誰よりも早く仕上げていました。筆者は忙しいと言えなくなりました。

筆者は何事ものらりくらりとこなして可もなく不可もなく済ましてきたのですが、対照的に彼女はやるとなったら何事もとことん完成度高く仕上げていて、筆者はそんなところを尊敬しています。今回の連弾もさらっときれいに弾いてくれることでしょう。

そんな端山恵菜ですが、最近面白い癖を見つけてしまいました。それは LINE の文面での効果音？です。”ぬあー””おおーん””ぬおー”今までスルーしてきましたけど、よく考えたらなんか変じゃね？そんな返信ある？

今度リアルでも言ってください。現場からは以上です！

1st ピアノプリモの端山より、セコンドの堀田柊成を紹介させていただきます。彼はいつもゆるっと優しい雰囲気を纏っています。ブラームスが似合うタイプですね。また、他の多くのピアノクラブの部員と同様フットワークは軽めです。今年

のスプリングコンサートの終演直後、打ち上げが始まるまでのわずかな時間に「どうしても人手が足りないって頼まれちゃったから〜」とバイトに行ったときはさすがに私もおお、、って思いました。そんな彼ですが、ゆるっとした雰囲気からは一変、連弾の練習は結構シビア…なわけもなく、ゆるっと(でもちゃんと真面目に)練習してました。本番も彼らしく、穏やかな気持ちで楽しく弾き切ってくれることでしょう。

2nd ピアノセコンドの酒向より、プリモの井上武優を紹介させていただきます。彼は通称 INDIE、ピアノクラブ 33 期の中でも指折りの美容家です。彼のいちばんの武器は長くて強いまつげです。調子の良い日はくりんと上がったバチバチまつげで、ダウナーな日はまつげも一緒に下がり気味になるらしいです。不思議ですね。

井上くんは短調の静かな曲を好んで演奏しますが、今回は組曲とあってバラエティ豊かな曲調が登場します。井上くんの普段とは一味違う演奏をお楽しみに！

2st ピアノプリモの井上より、セコンドの酒向みなみを紹介させていただきます。ゆるりとした優しい雰囲気の彼女は叙情的なドビュッシーの曲が大好きだそうで、今回二台八手で弾く曲としてこの曲が候補として挙がった時ものすごい勢いで推していたのは今でも覚えています。また彼女は広義原〇家といういかにも怪しい宗教団体に所属しており、〇田家で定期的に行われる儀式(ホームパーティー)に参加しそこで一夜を明かすそうです。最近は 1 週間のうち半分も自分の家で寝ていないほど教えに心酔しているようなので教祖様は早く洗脳から解放してあげてください。

14.　サン=サーンス：動物の謝肉祭

Ⅰ：序曲

Ⅶ：水族館

ⅩⅡ：化石

ⅩⅢ：白鳥

ⅩⅣ：終曲

工学部環境社会工学科 2年 浜口怜子（はまぐちれいこ）

薬学部薬学科 6年 成家康太（なりやこうた）

〈曲紹介〉

フランスの作曲家、カミーユ・サン=サーンスの代表曲である「動物の謝肉祭」は14曲から成る組曲で、一般的には管弦楽版で演奏されます。それぞれの曲には「亀」「象」「白鳥」など主に動物の名前がついているのですが、中には「ピアニスト」「化石」など風変わりなものもあり、それらには皮肉やユーモアが込められているんだとか。そんな「動物の謝肉祭」の中から今回は5曲をお届けします。

第1曲 序曲と獅子王の行進

ピアノのトレモロに続いて序奏が始まります。ファンファーレ風のリズムが印象的で、ライオンのイメージにふさわしい勇壮な行進曲です。

第7曲 水族館

煌めくような細かい音の流れが見事に水を表現しています。薄暗い水族館をゆっくり歩きながら魚たちを鑑賞している気分になります。

第12曲 化石

はじめにサン＝サーンス自身が作曲した「死の舞踏」のメロディが軽快に演奏されます。自らの曲を「化石」とみなしているところが皮肉なんだそうです。続いておなじみの「キラキラ星」のメロディが出てきます。この曲も古いメロディということで「化石」なのでしょうか。それに続いて出てくるメロディも「月の光」という有名な古いフランス民謡の一部です。さらにロッシーニの「セヴィリ

アの理髪師」よりロジーナのアリア「今の歌声は」の一節につながっていき、最後に「死の舞踏」のメロディが再現されて終わります。

第 13 曲 白鳥
組曲から離れて単独で演奏されることの非常に多い不朽の名作です。アンナ・パブロワが演じて知られるようになった「瀕死の白鳥」としてバレエで上演されることもあります。
さざ波のような伴奏に乗って優雅なメロディが流れ、気品に満ちた白鳥が連想されます。

第 14 曲 終曲
第１曲冒頭の部分と同様のトレモロから始まります。軽快なリズムに乗ってこれまで出てきた動物たちの各曲のメロディが再現され、まるでカーテン・コールのようです。最後は華やかにフィナーレを迎えます。

2 台のピアノを通して、動物園や水族館に行ったときのようなワクワク感を感じていただけたら幸いです。
29 代&33 代部長コンビの私たちも楽しんで演奏したいと思います！

〈人物紹介〉
プリモの浜口よりセコンドの成家さんをご紹介します。
まずはそこのあなた、お手持ちのスマホで「成家康太」と検索してみてください。
薬学研究院、ピティナ、日本薬学会、市川学園オーケストラ部…etc.
いろんなサイトにヒットします。いかに成家さんが様々な分野でご活躍されてきたか一目瞭然でしょう。ちなみにピティナのサイトでは中１のときの成家さんの写真が乗っています。当時から全然変わってなくて面白いです。

実際、成家さんはとにかくすごい方です。ピアノの腕はもちろんのこと、忙しい学科に所属しながら学業も優秀な上、29 代の部長時代はピアノクラブを大きく発

展してくださりました。またクラブの OB・OG の方々との繋がりも強く、先日の OB・OG コンサートは成家さんのおかげで大成功を収めたといっても過言ではありません。間違いなく北大ピアノクラブ史におけるレジェンドの 1 人といえるでしょう。

私が初めて成家さんを知ったのは去年のサマーコンサートでした。トリは上級生の先輩か〜、どれどれとプログラムを見てみると、ショパンのバラード 3 番&4 番というイカれた選曲で驚いたことを覚えています。どちらも難易度の高い大曲であるにもかかわらず、疲れを微塵も見せない見事な演奏を披露し颯爽と去っていかれました。
顔を合わせることがあっても恐れ多くて話せないだろうな…とはじめは懸念していたのですが、予想に反して成家さんはフレンドリーでした。私が部長になってから、仕事に関する質問や相談事などなんでも聞いてくださり、本当にお世話になりました。
かと思えば、お酒が入ると情けない姿になってしまうという一面もお持ちです。つい最近の飲み会では、酔って後輩に何度もイタ電したりご自身の成績証明書をばらまいたりと酷い有様でした。しかし、そんなところもひっくるめて成家さんが誰からも愛される所以なのでしょう。

そんな成家さんも、もうじきご卒業を迎えられ札幌を離れてしまいます。
ピアノクラブ一同、成家さんとのお別れを非常に寂しく思っておりますが、スーパーマンの彼ならきっと新天地でもバリバリご活躍なさることでしょう！
またいつでもピアノクラブに遊びに来てくださいね。お元気で！